

1 提案の概要

(1) 思考ツールを活用するよさ

① 子どもの実態から

思考ツールを活用した分かりやすい言語活動を行うことにより、子どもの思考力を伸ばすことができる。

② 思考ツールとは→思考の方法を視覚化したもの

③ 国語科で思考ツールを活用するよさ

- ・ 言語で表す言語の形式を身に付けることができる。
- ・ ものの考え方の「形」を増すことができる。

(2) 変形クラゲチャートを活用した実践

① 人物に焦点を当てた実践例・・・根拠を見つける

「名前を見てちょうだい」(東京書籍2年)

「えっちゃんほどのくらいおこっているのだろう。」

↓

観点に入れるもの・・・「見たこと」(行動)、「聞いたこと」(会話文)、「思ったこと」(心の中)

「注文の多い料理店」(東京書籍5年)

「ふたりのしんしはどんな人物だろう。」

観点に入れるもの・・・「見たこと」(見た目)、「聞いたこと」(会話文)、「思ったこと」(心の中)

② 場面を比較するときに活用した実践例・・・変容を捉える

「モチモチの木」(東京書籍3年)

「おくびょう豆太」の場面と「豆太は見た」場面の比較

③ 交流に活用した実践例

4年「走れ」・・・1人の人物を選び、変形クラゲチャートをもとに交流する。

同じ人物を選んでいる複数のグループが発表し合うと、共通点や相違点が見つかる。また、全体の話し合いのきっかけが生まれ、その人物について読みを深めることができる。さらに、全体の話し合いの中で、他の人物との関わりを確認していくことで、人物の横のつながりも読み深めることができる。

(3) 演習・・・「ヒロシマの歌」(東京書籍6年)

① 思考ツールをどこで使うか。→クライマックスで使う。

「なぜ、わたしは今、話さなければならないと思ったのだろう。」

② クラゲの足に何を入れるのか。→めあてに迫るために必要な観点を選ぶ。

③ クラゲチャートに書いてみる。

④ 実践例の紹介

2 成果

- ノートになかなか書けなかった子が、自分から進んで書くようになった。
- 可視化されたことにより、友達の考えがよく分かった。
- 友達との関わりで考えが深まった。
- 子ども自身が自分の課題として、教材文をよく読むようになった。

3 課題

- 問いによって選ぶ観点が変わってくるので、問いと観点の関係について考えていきたい。
- クラゲチャートは観点を絞り込むことに価値がある。問いに答えるための「観点」を選ぶ力、観点のレベルを比較する力などについても考えていきたい。